

How to!

筆の洗い方

西本皆文堂



筆の扱いには、これといった決まりはありません。従って、洗う・洗わないの判断は、お客様の方で決めて頂きたいと思います。このプリントでは、きちんと墨を落としたい方に向けて、手順を説明いたします。

ここがポイント!

- 使用後なるべく早く洗う
当たり前ですが、墨が固まってくると、その分落ちにくくなります。早め早めにきちんと根元まで墨を落とせば、**筆割れもしにくくなります。**
- 穂先保護用の透明キャップは外す
お買い上げ時に付いている、穂先保護用の透明キャップは、**使用後には付けずに処分して下さい。**良く乾燥させずに生乾きのままキャップをされますと、筆の内部で湿気がこもり、腐ってしまうことがあります。

大筆

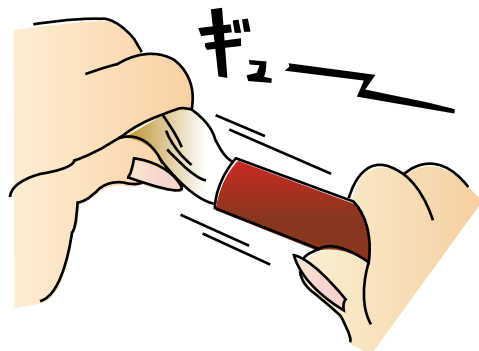
とにかく根気よく洗うこと!
根元の中まで墨を落とせば、筆は長持ちします。



①適当な容器にぬるま湯を溜めて洗います。根元を軽く押しつけて、内側に入っている墨を押し出して下さい。



②何度か水を換えて、水が汚れなくなるまですすぎましょう。基本的にはこれだけで墨は落ちますが、落とすきれない場合は③の方法をお試し下さい。



③なかなか墨が落ちない場合は、毛先をつまみ、根元を回す様に軽く力を入れて揉みだします。毛の間にすき間を作り、水を入れてあげることがコツです。しかし、やりすぎると筆に負担がかかり毛を傷めてしまうのでご注意を。

流し洗いでは墨が落ちません!!

水道で洗い流しても、外側に付いてある墨しか落とせません。墨を落とすのであれば、溜め洗いましょう。

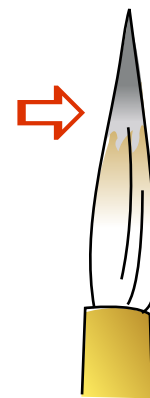
小筆



消耗品の小筆ですが、できるだけ限り丁寧に墨を落としてください。持ちが大分違うはずですよ。

①墨を反故紙(使い古した用紙など)でふきとります。

②次に、水を吸わせた紙で丁寧に汚れを落とします。



③矢印の部分は、墨が固まりやすいので、何回も軸から穂先の方向にふきとりましょう。

洗った後は・・・?

日陰の風通しの良い場所に置いて、乾燥させましょう。その時、穂先は下に向けるか、もしくは横向きにする。上を向けて乾かすのはできるだけ避けるようにしましょう。柄の先にひもが付いていれば、吊るして乾かすのがベストです。

ここがギモン! 筆のQ&A

Q 羊毛の筆を洗っても、元の白色に戻りません。最初に青墨を付けると良いと聞きましたが、本当でしょうか?

A >羊毛などの白い毛の筆は、きれいに洗っても毛がだんだん黄色く変色していきます。これは、墨に含まれる膠(にかわ)の成分が、毛に染み込んでいく為です。このため羊毛の筆は、使い続ける内に弾力のある筆になります。使い込むことによって、自分好みに仕立てていくことができます。>最初に青墨に付けると墨色が染み込みにくい、という話は聞きますが、何とも言えません。実際には青墨以外の墨を何度も使うことになるので、段々と染み込んでいく気がします。

Q 時間が無いので、一番早く墨を落とす方法を教えてください。

A >一番早く墨を落とすのは、やはり中性洗剤です。ただ、細かい毛を溶かしてしまうので、あまりお勧めはできません。ごくまれにリンスをする方がいらっしゃいます。櫛の通りは良くなると思うのですが、油分が毛に付くので、墨含みが悪くなります。書き味に支障が出てくると思いますので、避けた方が無難でしょう。>道具を長く、大事に使いたいのであれば、作品をつくる時間と同じくらい、手入れやメンテナンスにもじっくり時間をかけてあげましょう。とても根気が要りますが、急ぐあまり洗剤などを使用することは、筆の寿命を縮めることにつながります。